

MAXQDA 入門ワークショップ用ティーチング・ガイド

本ガイドでは、MAXQDA を用いたワークショップでの教え方について、私たちの専門トレーナーが推奨する、有益な情報を紹介しています。たとえば 20 名程度の参加のある比較的大きなワークショップや、ただ同僚に MAXQDA を紹介したいといった場合など、様々なケースで本ガイドは役立つでしょう。

設備

ワークショップをする際は、プロジェクトおよび、MAXQDAがインストールされたPCが必要になるでしょう。各参加者も、MAXQDAがインストールされたPCを使用できるのが望ましいです。参加者ら自身にPCを持参してもらうのもよいし、MAXQDAの搭載されたPC設備の整った部屋で行うのもよいです。MAXQDAのライセンスをお持ちでない方には、ワークショップに際して、<http://www.maxqda.com/demo>から、14日間の無料体験版をダウンロードしていただくとよいでしょう。

サンプルファイル

MAXQDAのサンプルプロジェクト

MAXQDAには、以下の言語によるサンプルプロジェクトが備わっています。英語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、日本語、中国語です。MAXQDAのトレーニングワークショップをされる際などに便利です。これらのサンプルプロジェクトにアクセスするには、MAXQDA起動画面の「Open Examples」オプションをクリックしてください。

サンプルプロジェクトの名前は以下の通りです。「Life Satisfaction」（英語）、「Klimawandel」（ドイツ語）、「Medica Proyecto」（スペイン語）、「Voluntariado」（ポルトガル語）、「生活満足度」（日本語）、「家庭教育」（中国語）。これらのサンプルプロジェクトは、どれも、様々な形式の「文書（document）」を含んでいます。たとえば、インタビューの逐語録、フォーカスグループの逐語録、PDFファイル、映像ファイルなどです。多くの文書は、既にコーディングされています。



入門ワークショップの際には、参加者の方々にまずは、空のプロジェクトファイルを開いてもらうことをお勧めします。空のプロジェクトファイルから始めることで、様々なタイプのデータのインポート方法を効率的に教え、学ぶことができます。サンプルプロジェクトから文書をエクスポートし、それらをあなたのPCに保存し、そしてこれらのファイルをワークショップ参加者らに配布することをお勧めします（EメールやUSBなどで）。全ての文書をエクスポートするには、「レポート」>「エクスポート」>「全ての文書」をクリックしてください。特定の文書のみをエクスポートしたい場合は、用いたい文書をアクティブ化したのちに「レポート」>「エクスポート」>「アクティブ化された全ての文書」をクリックしてください。

MAXQDAへの文書（インタビュー逐語録等）のインポートを実演する前に、まずユーザーインターフェースの説明をされるとよいでしょう。そのうえで、参加者ら自身で文書のインポートを試してみてもらいましょう。

その他、様々なサンプル文書

以下のリンクから、様々なサンプル文書（サーベイ、フォーカスグループ逐語録、ニュース記事）をダウンロードすることもできます*。<http://www.maxqda.com/download/example-data-financial-downturn.zip>

*) サンプルデータセットの使用を許可いただいたChristina SilverおよびAnn Lewinsの両氏に感謝申し上げます。本データセットは*Using Software in Qualitative Research*. 2nd edition 2014, Los Angeles/London//New Delhi/Singapore/Washington DC, SAGE Publications Ltdのために作成されたものです。

MAXQDA入門 – ワークショップの進め方：例

この例は、典型的な研究プロジェクトの分析の際にとられる基本的な手順に従っています。以下の各項目をいずれもカバーするのが望ましいでしょう。また、参加者らがMAXQDAを実際に触ってみるのに十分な時間を確保するのが良いでしょう。

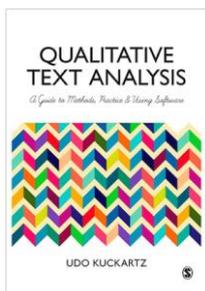
1. ユーザ・インターフェース
 - a. 4つのウィンドウ = 4つの作業スペース
 - b. リボンメニューとツールチップ
2. 新規のプロジェクトを作成し、データをインポート
 - a. 新規のプロジェクトを作成
 - b. データをインポート
 - c. 文書グループでデータを整理
 - d. 様々な種類のデータ（テキスト、PDF、表、画像、音声、映像、サーベイ、Twitter等）
3. データの閲覧と編集
 - a. 文書ブラウザで文書を見る
 - b. 編集モードでデータを編集する
4. データのコーディングとコードの管理
 - a. コードの作成
 - b. コーディングのオプション
 - i. 文書中のセグメントを選択し、既存のコードにドラッグ&ドロップ
 - ii. 文書中のセグメントを選択し、新規のコードを作成
 - iii. 文書中のセグメントを選択し、インビボコードを作成
 - iv. 色彩コーディング
 - v. 絵文字コーディング
 - c. コードの色を変更
 - d. コードシステムの管理
 - i. ドラッグ&ドロップでコード群の配置をかえる
 - ii. コード付きセグメントをあるコードから他のコードへ移動/コピー
5. コード付きセグメントの検索
 - a. 文書とコードをアクティブ化
 - b. 出典情報の表示パネルから、元のデータへジャンプ
 - c. 検索済セグメントを表形式で閲覧
6. メモの活用
 - a. メモのタイプ：文書メモ、コードメモ、テキストメモ、フリーメモ
 - b. メモのアイコン
 - c. メモの管理
7. 語彙検索

- a. キーワード検索
 - b. 検索結果の自動コーディング
8. エクスポートのオプション
- a. 検索済セグメントをエクスポート
 - b. 「レポート」>「エクスポート」から要素をエクスポート
9. ヘルプ
- a. ヘルプ：無料マニュアルとビデオチュートリアル（MAXQDA起動画面から）
 - b. MAXQDAのウェブサイトからも無料マニュアルとチュートリアルにアクセス可

さらに時間に余裕があれば、次のような機能についても学ぶとよいでしょう——MAXQDAを用いたトランスクリプション（いわゆるテープ起こし）、可視化ツール、変数を用いた分析、MAXQDAを用いたチーム作業等。

文献

MAXQDAは、様々な方法論的アプローチのために用いることができます。しかし、ソフトウェアの応用自体は研究方法ではありません。ワークショップを行う際には、質的研究の方法や分析方法論についての基本情報を盛り込むことをお勧めします。良質なテキストブックには、たとえば、MAXQDAの開発者であるUdo Kuckartz教授の著作、*Qualitative Text Analysis*があります（邦訳版：佐藤郁哉訳『質的テキスト分析法』）。



Qualitative Text Analysis

A Guide to Methods, Practise and Using Software

Udo Kuckartz

SAGE Publications, London, 2014

『質的テキスト分析法——

基本原理・分析方法・ソフトウェア』

佐藤郁哉訳

新曜社、2018年



ナラティブ、インタビュー、フィールドノーツ、フォーカスグループ等のデータを、どのようにしたら分析できるでしょうか。

本書はこれらのタイプのデータ分析にとって最適で、方法論およびその理論的基礎についての実践的な説明を提供してくれます。(1) 主題型 (2) 評価型 (3) 類型構築型、の三通りの主要な質的テキスト分析法に関して、ステップバイステップで解説されています。とりわけ、分析結果の提示方法やデータ分析ソフトウェアの使用法に焦点が当てられています。これらは質的テキスト分析を具体的に実現するのにきわめて適した方法です。これらを学ぶことでより早い、より信頼性のある、そしてより正確な分析が可能になるでしょう。本書では、ソフトウェアをどのようにしたら活用できるかについて、テープ起こしから分析結果の提示・可視化に至るまでの段階が詳述されています。

本書は、社会科学分野における修士課程・博士課程の学生はもちろん、テキストの体系的な分析を志すすべての研究者の方々に楽しんでいただけます。

お問合せ

MAXQDAワークショップを実施されるにあたってサポートが必要の際は、research.network@maxqda.comまでご連絡ください。